

「やさしい気持ちで」

鳥取県 雲昌寺 住職 北山 悟月
うんしょうじ きたやま ごげつ

ある夏の日の出来事です。私はお寺の境内で、樹木の枝切りをしていました。ことのほか暑い日で日差しも強く、私は作業を早く終わらせたいと思っていました。その時駐車場から車の音がして、お寺へお参りに来られたお檀家さんと目が合いました。私は「こんにちは。お参りいただき、ありがとうございます。今日も暑いですね」と元気にあいさつをしました。すると、お檀家さんは「住職さん、こんにちは。どこか具合が悪いみたいだけど、大丈夫なの？」と優しい言葉が返ってきました。しかし同時に、相手の方の顔には、いつもと違う心配や不安な表情も感じられました。私はお檀家さんの眼を見て、ハッ！と気づきました。私は、枝をバサッ！と切るような気持ちで、あいさつをしてしまったのではないかと……。その時の私は、暑さで早く作業を終えようとして、お参りに来た方に挨拶をするのが雑になっていたのかもしれない

私は、枝切りバサミを静かに置いて一呼吸してから、「大丈夫ですよ。ちょっと夏バテで疲れていたかもしれませんが、元気ですよ」と相手の優しい眼を見ながら言いました。一呼吸置いた後の私の会話は、心が穏やかになっていたからでしょうか。相手の方は、観音様のようないつもの穏やかな顔に戻り、「ああ、よかった。いつも通りの声で。」と言われ、その後はお檀家さんと私、二人で和やかに世間話をしました。

自分では気づかない、何気ない一言や態度が、相手を喜ばせることもあれば、悲しませることもあります。全く同じ言葉や行いでも、相手を思いやる気持ちがなければ、人を傷つけてしまうこともあると思います。枝を切る時も、暑さで汗を拭くときも、日常の隅々まで心にゆとりを持ち、仏様に向かい合う気持ちで行えば、よいのかもしれない。

もし、心にゆとりがないと思ったときには、そっと一呼吸しゆとりを取り戻しましょう。そうすることで、心が落ち着き、自分にも相手にも、思いやりのある優しい生き方ができると気づきました。